元気いっぱい
笑顔いっぱい
阿見町立本郷小学校
学校だより

えがお

NO. 21
令和５年７月７日（金）

七夕かざり

５年生が、みんなのために七夕飾りを作ってくれました。
東、西、それぞれの昇降口の飾りには、自由に願いを書き込めるように短冊も用意してくれました。季節感のある環境づくりも、学校では大事なことですね。竹は、学校の裏手の方からいただきました。これもありがたいことです。先生たちも願い事を書き込んでいます。５年生のみんな、ありがとう。
みんなはどんな願い事を書いたのかな？

「ここは、お客様の来るところです。会議もしています。どうすればいいのかな？」　先生の、そーっ　とした声が聞こえます。

職員室や校長室前、玄関前を通る時、特に低学年の先生たちは、こんな声かけをしています。教室移動の際には、他の授業のことを気遣って静かに移動する。
授業中は、姿勢よく座る。話をする時としない時の区別を付ける。話している人を見て話を聴く。話を最後まで聴く。名前を呼ばれたら返事をする。丁寧なことばを使う。時間を守る。机の上には必要なものだけにする。授業中に勝手に歩き回ったり大きな声を出したりしない。時と場に合わせた立ち居振る舞いをする。休み時間のうちにトイレや授業の準備をする。など。
これらのことは、「学習の規律」であり「生活上の躾（しつけ）」ともいえます。集団生活を送る学校では、これを身に付けることが必要です。家庭ではできない人との関わりの部分です。やがて社会に出た時の生活の基本となります。
先生たちは、これらが身に付くように声をかけ続けます。これらがなぜ大切なのかを子供たちに納得させて実践できるようにしていきます。特に１年生は、今までと全く違った生活や約束事を理解して身に付けていくのですから、どの子にも分かるように、機会に応じて、そのたびに丁寧に指導することが求められます。ただし、あまりきちんとさせようとすると、お互いに辛くなってきます。時にはきつく、時にはゆるく「いい塩梅（あんばい）」にできるとよいのですが、この加減が難しい…
本来、子供は元気でおしゃべりです。静かにするだけでも、けっこう時間がかかるものです。声の大きさを変えたり、間をとったり、ほめたり、しかったり、３０数人のそれぞれの生活体験の違いを受け止めて、その上で理解させて実践に導く、「躾は家庭で」とも言われますが、保護者の皆さんと連携していくこともとても大切だと感じています。
学年が上がるにつれて、だんだんと身に付いてきますが、それでも、先生が言ったことをすぐにそのまま聞きいれる時ばかりではありません。分かっているけど、わざとやらない（できない）こともあります。そこで、子供とのやりとりや駆け引き？も必要になります。多くの子供たちと触れ合って、その子に合う声のかけ方や関わり方を見つけていく。今日も先生たちの試行錯誤は続きます。